

2020 年 10 月 8 日

電源開発株式会社 代表取締役社長 渡部 肇史 様

瀬戸石ダムを撤去する会

共同代表 出水 晃,上村 雄一,緒方 俊一郎,本田 進

連絡先〒869-0222 熊本県玉名市岱明町野口 927 土森方

TEL:080-3999-9928 FAX:020-4668-3744

e-mail:tsuchi_tk@ybb.ne.jp

瀬戸石ダム問題についての質問・要請書

今年 7 月 3 日から 4 日にかけて、熊本県南地域を襲った豪雨は各地に未曾有の被害をもたらし、球磨川流域はかつてない程の氾濫による水害が発生しました。私たちは、瀬戸石ダムの存在がダムの上下流の被害を拡大させたと考えています。この水害と瀬戸石ダムの関係に関して、下記質問・要請事項を送りますので、ご回答・ご対応いただきますようお願いいたします。回答希望納期は 10 月 23 日です。また、6 月 22 日付けで送付しました質問・要請書もまだ回答をいただいております。早急にご回答いただきますよう、お願いいたします。行き違いになっておりましたら、ご容赦ください。

記

1. 7 月 4 日 6 時から 9 時にかけての瀬戸石ダム（以下ダム）の状況を撮影した静止画・動画等あれば開示していただきたい。
2. 7 月 3 日 4 時から 4 日 12 時にかけて、ダムの個々のゲートの全ての操作状況について回答されたい（例：7 月 3 日 5 時、ゲートが全て閉じられている状態から、5 門全てをダムの基礎部分の上端部分から 50 c m 上までオープンした等、時系列的に個々のゲートの動きが分かるように）。
3. 貴社の「瀬戸石ダム放流に関するアナウンス・通知の状況」に関する資料
<https://www.jpowers.co.jp/oshirase/pdf/oshirase200812-2.pdf>
を見ると、3,000m³/秒以上の放流の情報のアナウンスや通知が遅れたり、通知できなかったりしている。ダム下流住民の生命・財産にかかわる重要な情報であるにもかかわらず、通報システムが機能しておらず、住民に伝わっていないのは重大な責任問題である。貴社はこのことをどう受け止めているのか。
4. 今回の水害におけるダムの発電・変電設備の被災状況と復旧計画を開示していただきたい。
5. 今回の水害によるダム破損の被災額はいくらか。
6. 今回の洪水における最大出水時のダムの背水の範囲はどこまでか。球磨川や吉尾川での終端を示していただきたい。別紙 1 の地図に分かるように記してください。
7. 平常時のダム湖の水位はいくらか。
8. 今回の洪水における最大出水時のダム湖の水位はいくらか。
9. ゲート操作が出来るのは、ダム管理所だけか。どこか別の所でリモート操作は出来るのか。
10. 貴社の情報（*）では、「(7 月 4 日) 午前 3 時から 4 時頃に、洪水吐ゲートの下端が水

面より離れ、流入水がそのまま流下する自然河川に近い状態へ移行しました」とあるが、私たちの調査ではダムは構造物自体が河道の断面積の約 66%も塞いでいることが明らかになった(別紙2 参照)。よって「流入水がそのまま流下する」ことはあり得ない。だからこそ、ダム湖はかつてない程に水が溜まり、ダム湖周辺地区に甚大な被害をもたらした。なぜ、「流入水がそのまま流下する」と言えるのか。

* <https://www.jpowers.co.jp/oshirase/2020/08/oshirase200812.html>

11.ダム湖周辺地区の海路、簔瀬、白石、吉尾、小口、漆口地区が受けたかつてない程の甚大な被害の原因は何か。

12.今年度のダム湖の堆砂量を開示されたい。

13.当会は、かねてから、ダム湖の堆砂問題を貴社や国土交通省に指摘し、もっと土砂撤去すべきであると指摘して来たが、残念ながら今回の豪雨で未曾有の水害が発生した。それはもちろん、ダム湖の堆砂が一因であるが、質問 10 で述べた通り、河川に巨大な構造物が存在すること自体がもたらした災害であることは明らかである。もはや、流域住民にとっては、百害あって一利なしの存在にすぎない危険なダムであり、早急に撤去すべきと考えるが、貴社はこのダムの撤去の意思はないのか。撤去するつもりがないならその理由は何か。

以上



瀬戸石ダムの流量阻害実態

- ①最高水位 53m(EL)
- ②湖底 24.5m(EL) (ダムが無い場合の川底)
- ③堤体長 139.35m
- ④最高水位時の断面積
 - A. ダム本体 $139.35\text{m} \times (53\text{m(EL)} - 24.5\text{m(EL)}) = 3971 \text{ m}^2$
 - B. 道路上部 約 $20\text{m} \times 2\text{m} = 40 \text{ m}^2$
 - A+B = **約 4011 m²**
- ⑤開ゲート部(放流口) $15\text{m(H)} \times 17.7\text{m(W)} = 約 265.5 \text{ m}^2$
 $265.5 \text{ m}^2 \times 5 \text{ヶ所} = 約 1327.5 \text{ m}^2$
- ⑥ 水が流れる箇所の面積 B+⑤ = **約 1367.5 m²**
- ⑦ 流量阻害割合(最高水位時の断面積に占める構造物の断面積の割合)

最高水位時の断面積に占める水が流れる箇所の面積の

割合 ⑥÷④ = $1367.5 \div 4011 = 約 0.341$

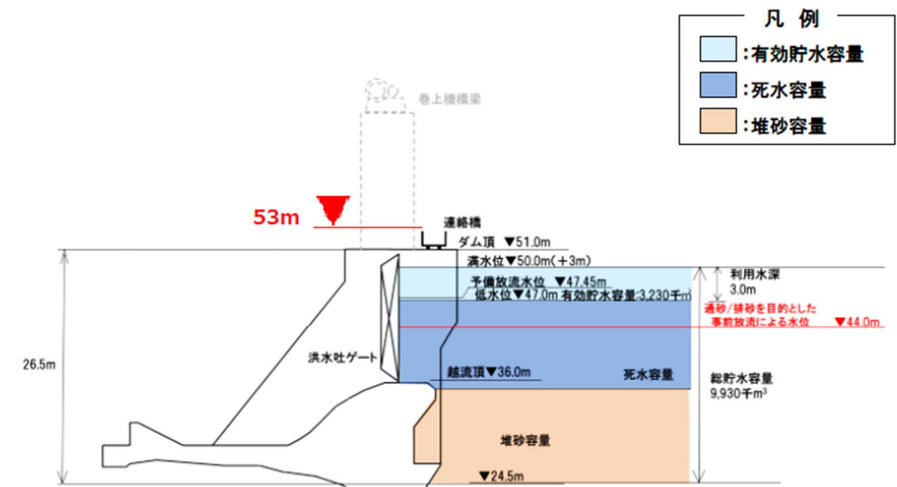
流量阻害割合 = $100\% - 約 34.1\% = \text{約 } 65.9\%$

注: 堤体長を除く構造物の幅は写真の縮尺で得られた数値です。

結論として

左記の計算の結果、瀬戸石ダムは川の断面積の約3分の2の流れを妨げていることが分かる。このことにより、ダムの上下流の被害をかなり大きくしたものと考えられる。

瀬戸石ダム・発電所の諸元



瀬戸石ダム・発電所 全景(上流側より 2020年 7月23日)



(図・写真は電源開発のWEB サイトから引用、加筆)